

「せたな町農業・農村振興計画」の策定に係る
農業経営者に対するアンケート結果（詳細）

平成24年9月
せたな町産業振興課

□ 調査目的

- ・ せたな町が抱える農業・農村の振興に関する現状や課題を把握する。
- ・ 農業経営者の思い描く将来像や施策に対する要望などを把握する。
- ・ 農業者に町農業・農村の現状と将来像と一緒に考えていただく。

□ 調査方法

調査期間：平成24年7月9日～8月30日

調査方法：別紙アンケート用紙を全農家に送付し、JA又は役場に届けてもらう方式

□ 回答数・回答率

(単位：経営体)

区分	JAきたひやま	JA新はこだて (以下：瀬棚)	JA新はこだて (以下：若松・大成区)	計
アンケート送付数	226	43	115	384
回答数	77	15	34	126
回答率	34.1%	34.9%	29.6%	32.8%

□ 回答結果

I 農業経営の現状(平成24年4月1日現在)

1 営農形態

(単位：経営体)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
(1)水田専業	21	2	9	32
(2)畑作専業	0	1	1	2
(3)野菜専業	1	0	0	1
(4)酪農専業	10	5	3	18
(5)肉用牛専業	1	1	1	3
(6)養豚専業	0	0	1	1
(7)水田畑作	9	0	4	13
(8)水田畑作野菜	15	0	8	23
(9)水田野菜	9	1	4	14
(10)水田酪農	2	0	0	2
(11)水田肉用牛	0	3	0	3
(12)畑作酪農	2	0	0	2
(13)畑作肉牛	0	0	0	0
(14)その他	3	2	2	7
無回答	4	0	1	5
計	77	15	34	126

2 経営形態

(単位：経営体)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
(1)個人経営	74	15	31	120
(2)1戸1法人	1	0	2	3
(3)共同法人	0	0	0	0
無回答	2	0	1	3
計	77	15	34	126

3-1 家族構成と家族労働力

(1) 経営主の年齢

(単位：経営体)

区分	J A きたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
平均年齢	57	50	57	56
20代・30代	3	1	3	7
40代	14	7	3	24
50代	25	4	9	38
60代	21	3	14	38
70代以上	6	0	2	8
無回答	8	0	3	11
計	77	15	34	126

(2) 家族人数と農業従事者数

(単位：人)

区分	J A きたひやま	瀬棚区	若松・大成区	町平均
家族人数	3.6±1.5	4.6±1.9	3.5±1.2	3.7±1.5
うち農業従事者数	2.4±0.7	2.5±0.8	2.3±0.7	2.7±0.7

(注) ±の値は標準偏差

(3) 後継者の有無

(単位：経営体)

区分	J A きたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
個人経営等農家数(a)	75	15	31	121
後継者無し	42	4	16	62
未定・不明	18	8	7	33
後継者有(b)	25	3	8	36
後継者有の割合(b/a)	33.3%	20.0%	25.8%	29.8%

4 経営主及び後継者の就農形態

(1) 経営主

(単位：人)

区分	J A きたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
卒業後に即就農	34	3	13	50
Uターン就農	10	0	8	18
新規参入	3	6	2	11
その他	0	2	1	3
計	47	11	24	82

(2) 後継者

(単位：人)

区分	J A きたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
卒業後に即就農	5	2	4	11
Uターン就農	5	2	3	10
新規参入	0	0	0	0
その他	5	0	0	5
計	15	4	7	26

5 認定農業者制度

(単位：経営体)

区分	J A きたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
(1) 現在認定農業者、更新したい	56	11	23	90
(2) 現在認定農業者、更新しない	2	1	3	6
(3) 今後、認定農業者になりたい	7	0	2	9
(4) 認定農業者になるつもりなし	1	1	2	4
(5) メリットがわからない	9	0	3	12
(6) その他	3	0	0	3
合計	78	13	33	124

6 他産業への就業の状況について

(1)この1年間で、経営主・家族が農業以外で給料をもらうような仕事をしたか？ (単位：経営体)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
(1)仕事をしていない	38	7	10	55
(2)仕事をした	37	8	20	65
うち恒久的勤務	19	2	6	27
うち自営兼業	3	1	2	6
うち出稼ぎ	1	1	1	3
うち日雇、臨時雇	14	4	11	29
(3)未回答	2	0	4	6
計	77	15	34	126

(2)(1)の「仕事をした」と回答した人のうち関わった家族の人数(町全体) (単位：人)

区分		仕事に関わった家族の人数			
勤務形態	具体的な業種	町内		町外	
		男性	女性	男性	女性
恒久的勤務	公務員・会社員、土木建設、福祉、看護師等	14	8	7	2
自営兼業	運輸、販売、建設等	3	0	2	0
出稼ぎ	オペレーター、土木等	1	0	2	0
日雇、臨時雇	土木、看護、運転手、パート	17	6	5	1
	計	35	14	16	3

合計 68 人 1 農家当たり 1.0 人が農外で働く

7 他産業への就業の意向について

(1)今後、家族は、農業以外で給料をもらうような仕事の意向 (単位：人)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
(1)仕事をする意向はない	42	8	20	70
(2)仕事をしたい	21	7	13	41
うち恒久的勤務	8	1	3	12
うち自営兼業	3	1	3	7
うち出稼ぎ	0	0	2	2
うち日雇、臨時雇	10	5	5	20
(3)未回答	14	0	1	15
計	77	15	34	126

(2)(1)の「仕事をしたい」と回答した人のうち関わった家族の人数 (単位：人)

区分		仕事に関わった家族の人数			
勤務形態	具体的な業種	町内		町外	
		男性	女性	男性	女性
恒久的勤務	会社員、土木建設、福祉等	8	4	4	0
自営兼業	運輸、販売、建設等	4	1	1	0
出稼ぎ	土木	2	0	0	0
日雇、臨時雇	土木、看護、運転手、パート	14	4	4	1
	計	28	9	9	1

合計 47 人 1 農家当たり 1.1 人が農外で働く意向

8 雇用労働状況について

(1)雇用の有無

(単位：経営体)

区分	J Aきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
有	35	7	14	56
無	36	8	19	63
未回答	6	0	1	7
合計	77	15	34	126
雇用を取り入れている経営対数割合	45.5%	46.7%	41.2%	44.4%

(2)雇用期間

(単位：経営体)

区分	J Aきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計	
短期 (2週間未満)	～5人	17	5	11	33
	6～10人	4	1	0	5
	11人以上	2	0	0	2
	計	23	6	11	40
長期 (2週間以上)	～3人	9	2	4	15
	4～10人	2	0	1	3
	11人以上	2	0	1	3
	計	13	2	6	21
短期・長期の双方雇用	8	1	2	11	
未回答	2	1	0	3	

9 ヘルパーの利用状況

(単位：経営体、日)

区分	J Aきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計・平均	
利用経営体数	7	2	1	10	
平均利用日数	冠婚葬祭	4.4	2.0	10.0	4.5
	病気・怪我	17.0	8.5	0.0	15.0
	余暇・娯楽	6.5	5.7	2.5	5.5
	その他	4.5	4.0	2.3	3.7
	計	32.4	20.2	14.8	28.7

10 農作業の委託状況について(町全体)

(1)耕種(水稻)

委託作業項目	委託実施経営体数	委託内容	
		委託面積 (ha)	委託日数 (日)
育苗	4	6.7±0.6	15.0日±0.0
移植	4	6.0±0.0	6.4日±1.2
除草・防除	12	16.5±1.2	2.0日±1.4
収穫	7	5.3±1.6	6.5日±5.0
実戸数	16	—	—

(注)「±」の値は標準偏差である

(2)耕種(畑作又は園芸)

委託作業項目	委託実施経営体数	委託内容	
		委託面積 (ha)	委託日数 (日)
育苗	0	—	—
移植	2	9.5±0.0	10.0±0.0
除草・防除	4	7.1±2.0	16.5±19.0
収穫	9	15.3±22.0	8.3±6.1
実戸数	9	—	—

(注)「±」の値は標準偏差である

(3) 畜産

委託作業項目	委託実施 経営体数	委託内容	
		委託面積 (ha)	委託日数 (日)
牧草収穫・粗飼料調製	2	1.0±0.0	1.0日±0.0
ふん尿散布	0	-	-
化学肥料散布	0	-	-
草地更新	2	12.8±10.0	?
実戸数	4	-	-

(注) 「±」の値は標準偏差である

11 農地の状況について

(1)ーア 農地の保有状況(耕種(畜産専業以外))

(単位: ha)

区分	田	畑	採草放牧地	平均
自己有地	7.6±8.9	1.1±4.9	0.9±7.8	9.6±9.6
うち遊休地	0.1±6.7	0.1±1.0	-	0.2±4.7
借地等利用権設定	1.7±5.0	0.5±5.0	0.4±3.9	2.6±4.9
計	9.4±9.5	1.6±5.6	1.3±9.9	13.3±10.7

(注) 「±」の値は標準偏差である

(1)ーイ 農地の保有状況(畜産専業)

(単位: ha)

区分	田	畑	採草放牧地	平均
自己有地	0.8±2.4	2.3±6.2	19.2±8.7	22.3±7.3
うち遊休地	0.1±0.0	-	-	0.1±0.0
借地等利用権設定	1.1±5.3	1.6±5.3	6.4±7.9	9.1±7.4
計	2.0±5.4	3.9±10.9	25.6±9.2	31.5±10.7

(注) 「±」の値は標準偏差である

(2) 団地数

(単位: 経営体)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
1団地	5	2	4	11
2団地	6	0	4	10
3団地	10	1	3	14
4団地	3	2	2	7
5団地	3	2	2	7
6団地以上	4	3	5	12
合計	31	10	20	61

(3) 農地の分散状況

(単位: 経営体)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計
農地の分散化が著しい	7	5	9	21
分散している農地もある	26	4	13	43
農地はあまり分散していない	33	6	9	48

12 農産物(米)の生産と出荷状況について

(単位: ha、t)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計・平均
回答数(経営体)	53	6	22	81
作付面積 (ha)	9.6±8.1	6.7±2.4	9.9±4.1	9.5±6.9
生産量 (t)	1,686.0	150.0	647.9	2,483.9
うちJA出荷	1,495.0	110.3	632.9	2,238.2
うちその他出荷	191.0	40.2	15.0	246.2

(注) 「±」の値は標準偏差

※ 米以外の、大豆、小豆、馬鈴しょ、野菜(ぼうれんそう、ブロッコリー等)については、それぞれ回答数も少なかったことから、集計していない。

13 家畜の飼養状況と出荷量について

(単位：頭、t)

区分	平均飼養頭数(頭)			出荷
	乳用牛計	うち経産牛	うち育成牛	生乳出荷量(t)
酪農(回答数23)	44.6±18.4	30.5±10.6	16.8±6.3	186.5±9.4
	肉用牛計			出荷頭数(頭)
肉牛経営(回答数6)	54.5±45.3	40.6±3.9	26.5±12.0	24.5±4.4

(注)「±」の値は標準偏差

※ 酪農、肉牛経営以外の、養豚、養鶏、羊については、回答はあるものの、飼養戸数が少ないことから、個人情報保護のため、公表しない。

14 耕種農家におけるたい肥の施用について

(1)たい肥施用の有無 (単位：経営体、%)

区分	回答数	構成比(%)
たい肥を施用している	49	55.1%
たい肥を施用していない	40	44.9%

(2)たい肥の入手方法<複数回答>

(単位：経営体、%)

区分	回答数	構成比(%)	備考(たい肥の購入価格)
近隣畜産農家	19	26.8%	1,000円/t(1件)
自家産	20	28.2%	2,000円/t(1件)
稲わら等と交換	7	9.9%	3,000円/t(1件)
無償	7	9.9%	10,000円/t(2件)
購入(価格は備考欄)	18	25.4%	

(3)たい肥を施用しない理由

(単位：経営体、%)

区分	回答数	構成比(%)	備考(たい肥の購入価格)
手間がかかるから	23	47.9%	施用量が不足、たい肥がない、必要性がない、雑草をすきこみ、時間がない など
お金がかかるから	12	25.0%	
その他(備考欄のとおり)	13	27.1%	

II 農業経営の将来方向

1 将来(概ね5年後)の経営の展開方向

(単位：経営体)

区分	JAきたひやま	瀬棚区	若松・大成区	計	割合(%)
現状維持	42	7	17	66	52.8%
拡大等	21	7	9	37	29.6%
縮小	9	1	3	13	10.4%
離農	4	0	5	9	7.2%
計	76	15	34	125	100.0%

2-1 「拡大」について

(1) 拡大の具体的手法(複数回答可、全JA)

(単位：経営体)

区分	回答数	備考
農地を拡大	賃貸 10	5ha：3、10ha：2、20ha：1
	購入 16	5ha以下：6、10ha程度：8
新部門の導入	2	肉販売1
法人経営化	5	うち共同1
クリーン農業等	3	うち1戸(水稲0.5ha)
雇用労働増	6	1名：3、2名：1
家畜頭数増	10	乳牛10頭：3、搾乳37頭、肉牛10頭：1、肉牛37頭、豚頭数2倍
家畜飼養方式変更	2	SPF化：1
加工、6次産業化	6	粉：1、直売：1、冷凍：1

(2) 拡大に必要なこと(複数回答可、全JA)

(単位：経営体)

区分	回答数	備考
資金の調達	26	
施設機械の導入	24	畜舎・機械の整備：5
		コンバイン、田植機等水稲関係機械整備：8
		加工施設整備：1
		直売所：1
技術習得	7	製粉、製麺、製パン技術：1 肉加工技術：1
その他	2	

2-2 「縮小」について

(1) 縮小内容(複数回答可、全JA)

(単位：経営体)

区分	回答数	備考
農地を減らす	4	5ha農地を縮小：1
部門を止める	4	馬鈴しょ：1、畑作：1、メロン：1
家畜頭数を減らす	1	乳牛を1/3減らす：1
作業を委託する	3	牧草作業を委託する：1
その他	0	

(2) 縮小理由(複数回答可、全JA)

(単位：経営体)

区分	回答数	備考
高齢化	14	
土地売却のめどがついた	0	
その他	1	

2-3 「離農」について

(1) 離農予定理由

(単位：経営体)

区分	回答数	備考
高齢化	8	
後継者不在	2	
負債	1	
その他	0	

(2) 離農後の予定

(単位：経営体)

区分	回答数	備考
当該場所に住む	9	
移転	2	
その他	1	

(3) 離農後の土地等の処分の考え

(単位：経営体)

	区分	回答数	備考
土地	売却したい	9	
	貸したい	2	
施設	売却したい	5	
	貸したい	3	

Ⅲ せたな町農業の課題と対策について

1 せたな町農業の課題として考えられること

(単位：経営体)

区分	緊急	中期的(5年)	長期的(10年)	未課題/解決済
(1) 既存負債の償還	18	18	24	19
(2) 経営展開を図るための資金確保	23	24	13	18
(3) 農業収入の向上	52	25	6	8
(4) 農業経営費の確保	44	22	3	11
(5) 家族以外の労働力の確保	22	30	6	19
(6) 後継者等担い手の確保	25	17	14	18
(7) 農地の確保等規模拡大	11	25	12	27
(8) 農業施設の不足、老朽化	34	21	18	9
(9) 農業機械の不足、老朽化	35	35	10	5
(10) 営農改善のための技術導入	15	24	15	4
(11) 法人化や集落営農推進	11	20	15	29
(12) 作業受委託組織、NPO等支援組織の充	15	19	12	28
(13) 生産性向上のための基盤整備	27	23	11	13
(14) ไร้スクリーンや有機農業などの推進	13	24	14	17
(15) 加工、直売などの6次産業化	13	26	17	16
(16) 米や生乳などの品質向上	23	21	10	16
(17) 野菜等高収益作物の導入	12	17	10	25
(18) 農場周辺の環境整備	19	22	14	19
(19) グリーンツーリズムやファームインなど都市との交流	10	21	13	19
(20) その他(※)	1	0	0	0

(※) 少ない所得でも豊かな経営がやれるという魅力の確保

2 家族労働力の確保の課題

(単位：経営体)

区分	回答数
(1) 経営規模拡大により労働力が必要	15
(2) 後継者がいない	26
(3) 高齢化により一人当たりの労働力が低下している	30
(4) ゆとりのある生活に向けて、家族の労働時間を減らしたい	20
(5) 新規事業の参入により、労働力が必要	3
(6) 経済的な余裕がなく、雇用労働力を導入できない	6
(7) 短期の雇用労働力の需要に対し、供給が不足している	31
(8) 長期の雇用労働力の需要に対し、供給が不足している	7
(9) その他	0

(※) 少ない所得でも豊かな経営がやれるという魅力の確保

3 後継者等担い手の確保の課題と対応

(1) 後継者等の確保が課題となっている理由

(単位：経営体)

区分	回答数
(1) 子供がいないから	8
(2) 子供がまだ小さいから	14
(3) 子供が家業に興味を持たず、他産業に就職しているから	22
(4) 子供が地元に戻ってこないから	9
(5) 所得が低いから	21
(6) 経営が不安定だから	20
(7) 休日が少なく、労働時間が長いから	15
(8) 自然や生き物相手の仕事で経験と技術が必要だから	11
(9) 肉体労働で体力を必要とするから	6
(10) その他(※)	6

(※) 魅力が伝わっていない

(2) 後継者等の確保手段や後継者がいない中で、今後の対応

(単位：経営体)

区分	回答数
(1) 子供が家業を継ぐまで待つ(子供の年齢や意思の変化を待つ)	20
(2) 親戚や近所の農家で後継者を探す	15
(3) 町外の新規参入者を受け入れる	24
(4) 規模を縮小して営農を続ける	28
(5) その他(※)	6

(※) 具体的記載2(頑張る、離農したい)

4 不足・更新が必要な農業施設・機械(複数回答)

(1) 不足している施設・機械

(単位：経営体)

区分	回答数
施設(牛舎、作業所、倉庫等)	11
ライスターミナル	1
水稻温湯消毒施設	1
トラクター	4
ブームスプレーヤー	1
直播機械	1
飼料収穫機1、作業機械3	4

(2) 老朽化している施設・機械

(単位：経営体)

施設等	回答数	機械	回答数
作業所	15	機械	3
倉庫	4	トラック	1
施設等	2	トラクター	25
水稻育苗ハウス	12	田植機	11
畜舎	10	コンバイン	26
育成舎	3	耕運機	1
乾草庫	2	播種機	1
サイロ	1	乾燥機	12
用水路	2	収穫機	3
排水路	1	ロータリー	1
バークリーナー	1	牧草作業機	7
シカ・パイプライン	2	ロールベラー	2

5 営農改善のために必要な技術等

(単位：経営体)

回答内容		回答数	回答内容		回答数
全般	全般	1	畜産	牛の飼養管理	2
	労働力低減	2		生乳体細胞数安定化	1
	品質向上	2		悪臭対策	1
	経費削減	1		放牧	1
	高所得	1		草地管理	1
	出来る技術	1		繁殖成績	1
	経営を再構築する技術	1		受精卵移植	1
	情報	1		簡易放牧地更新法	1
	営農形態別基本技術	1		オールＡＩ	1
	進化に対応した技術	1		優良精液確保	1
	肥料の技術	1		その他作物 加工法等	新規作物
水稻	直播	12	収穫量向上		1
	低タンパク化	9	花の品種		1
	イエス・クリーン	2	消費拡大させる技術		1
	稲わら有効活用	1	食品の調べ方		1
	良食味米生産	1	調理・加工法		1
	収量増	2	米・麦製粉		1

6 法人化や集落営農の具体的な進め方

(単位：経営体)

区分	回答数
(1) 1戸1法人	10
(2) 共同法人	16
(3) 米など土地利用型作物について集落営農	12
(4) 集落等の単位で集落営農	12
(5) その他	0

7 作業受委託組織やヘルパー等支援組織の具体的な進め方

(単位：経営体)

区分	回答数
(1) 田植え、稲刈り等の作業受委託組織	22
(2) 酪農ヘルパー組織の充実(※1)	19
(3) その他(※2)	4

(※1) うち肉牛ヘルパー2

(※2) うち収穫時期の運転手1

8 土地基盤整備について

(1) 基盤整備が必要な理由(上位3つを選択)

(単位：経営体)

区分	回答数
ア 排水が悪い	45
イ 地力低い	8
ウ 土質が悪い	9
エ 区画が狭い	25
オ 形状が使いにくい	11
カ 作業道が狭い	7
キ 草地更新が必要	13
ク 土地が急勾配	7
ケ その他(内容不明)	1

(2) 今後5年以内に必要な基盤整備(上位3つを選択)

(単位：経営体)

区分	回答数
ア 区画の大規模化	23
イ 土壌更新(草地更新含む)	21
ウ 客土・障害物除去	22
エ 農道整備	13
オ 排水改良	52
カ 区画形状の変更	11
キ 整備の必要はない	4
ク その他(※)	2

(※) 均平化1

9 品質向上のために必要な取組

(単位：経営体)

品目	項目	回答数	備考
米	タンパクの低下など食味の向上	41	
	冷害対策など収量の安定	24	
	その他	2	内容不明
生乳	細菌数、体細胞数の低下	1	
	ブランド化	1	
	乳成分、乳質の向上	1	
	安心して飲める牛乳	1	
畑作物	雑草対策、輪作	1	
	豆、そば	1	
	収量など	1	
肉用牛	良質な粗飼料確保	2	
	牛舎の整備	1	
	なんとなく買っているのを売れるようにする	1	
その他	良質なエサによる出荷月齢の短縮	1	養豚
	ワクチンの接種による出荷月齢の短縮	1	養豚

10 米と生乳に次ぐもう一つ考えられる品目

(単位：経営体)

考えられる品目	回答数	そのために必要なこと
肉	1	
スナップエンドウ	1	栽培技術
?	1	町内には2農協あるので、協力して町でできることを考えてほしい。技術・ブランド化。
いろいろ	1	農業センターの利用、試験
馬鈴しょ	1	面積の増(確立)
?	1	販売ルート、価格の安定、技術指導者
トマト	1	販売ルートの確立
花	1	技術導入、ハウス増設、売れ品目の選択
冬に出荷できる野菜(越冬キャベツ、大根、ニンジン、白菜)	1	何でもいいのであきらめずに作り続けること、一戸でやらずに共同でできるユンボが必要

11 農村周辺の環境整備の取組

(1) 農場・農場周辺の環境や景観に係る取組の状況

(単位：経営体)

項目	選択肢	回答数
ア 暴風や景観形成のための 農場・住宅周辺の植林	植林している	24
	植林していない	60
イ 農場周辺の雑草	雑草を取り除き、綺麗にしている	70
	農場周辺の草刈りが不十分で雑草が繁茂している	28
ウ 農場の景観への配慮	花壇や芝生などにより景観に配慮している	45
	景観にあまり配慮していない	48
エ 不要な農業機械や 車両	不要な機械などは表においていない	84
	不要な機械などが置いたままになっている	14
オ 農場の案内看板	案内看板を設置している	18
	案内看板を設置していない	73
カ 不要な施設、廃屋等	不要な施設等は撤去している	67
	不要な施設等は撤去していない	19
キ 施設周辺	道にぬかるみや凹凸がないようにしている	83
	道にぬかるみや凹凸がある	15
ク 老朽化農場内の施設	補修やペイントで景観維持に努めている	59
	補修やペイントはしていない	31

(2) 環境や景観に係る意識

(単位：経営体)

項目	選択肢	回答数
ア 農場・農場周辺の 環境整備の必要性	必要性を感じ、すでに取り組んでいる	42
	今後、何かしら取り組みたいと思う	52
	特に取り組む必要がない	9
イ 環境整備の必要性を 感じるが、取組が 進まない理由	時間に余裕がない	24
	労力に余裕がない	32
	地域で一体的に取り組まないと効果があがらない	30
	今まで農場環境整備について考えていなかった	9

12 農村と都市との交流について

(1) 農村と都市の交流に係る取組状況

(単位：経営体)

区分	回答数
ア 農家民宿により都市農村交流を実践している	1
イ 農家民宿以外の取組で都市農村交流を実施している (具体的な取組内容：農家そば屋で交流1、研修生受け入れ3)	7
ウ 都市と交流すべきだと思うが、何をすればよいのか分からない	24
エ 今後、取組事例が増えるまで様子を見たい	29
オ 交流したいが、時間に余裕がない	26
カ 交流したいが、労力に余裕がない	27
ク 都市との交流は不要	8

(2)都市と農村の交流推進に向けた各取組に対する考え

(単位：経営体)

区分	非常に必要	どちらかといえば必要	不要
ア 生産者と消費者が直接ふれあえる産地直売所などの「場」の拡大	23	60	6
イ 交流活動、文化活動の中心となる地域のリーダー育成など魅力ある「人」づくり	32	54	2
ウ 地域ブランドの創出や地域農畜産・水産物を使った魅力ある「食」づくり	43	42	2
エ せたな町が有する魅力の再評価と、観光資源としてのPR活動の展開	40	46	4
オ 観光客向け宿泊施設や娯楽施設の充実	16	48	21
カ 都市農村交流の基点となるグリーンリム関連施設の整備	15	58	14
キ 農林漁業体験など地域農業への理解を深める取組の推進	21	62	2
ク 豊かな自然環境の保全・再生や美しい農村景観づくり	31	50	4
ケ 教育や医療、介護の場としての農山漁村の可能性を創出	28	51	6
コ 開拓・入植期から残されている歴史的・文化的な景観や施設の保全	18	55	10
サ その他(※)	3	0	0

(※) 体験移住受け入れ組織1、住民と農家漁家の交流が先

13 加工や直売など6次産業化について

(1)現在の取組状況

(単位：経営体)

項目	取り組んでいる	取り組んでいない
農畜産物の加工に取り組んでいる	8	93
農畜産物又はその加工品の直売に取り組んでいる	16	86

(2)取組方法と具体的な内容

(単位：経営体)

品目	回答数	備考
加工	個人で取組	3 (味噌・ジャム・漬物)、(アイス・ヨーグルト)、ブルーベリージャム、味噌等
	団体で取組	2
直売	個人で取組	10(※1) 直売手法：希望者に直売、スイーツコーンの収穫体験型直売、A
	団体で取組	4 コープでのもぎたて市。品目：(※2)

(※1) 個人・団体の双方に取り組む者が2生産者

(※2) 味噌、ジャム、漬物、アイス・ヨーグルト、アスパラガス、卵、納豆、いり大豆、スイーツコーン等

(3)今後の取組の意向

(単位：回答数)

項目	回答数	
加工	取り組む予定はない	74
	取り組みたい	8
直売	取り組む予定はない	72
	取り組みたい	9

(4)せたな町「ふれあい市場」に農業者の出店が少ない理由(複数回答可)

(単位：経営体)

区分	回答数
忙しいので、出店まで手間が回らない	55
出展する農畜産物、加工品がない	61
その他(※)	9

(※) 週1回だけと農産物の出荷とあわない

週1ではなく、毎日出品できるようにすべき(道の駅のようにする)